(54) HAIRDYE

(11) 55-22638 (A) (43) 18.2.1980 (19) JP

(21) Appl. No. 53-95693 (22) 3.8.1978

(71) HARUO YAMAGUCHI (72) HARUO YAMAGUCHI

(51) Int. Cl3. A61K7/13

PURPOSE: A hairdye capable of dyeing the hair in various colors, consisting mainly

of a cationic dye.

CONSTITUTION: A hairdye consisting mainly of a cationic dye, e.g. C.I. Basic Blue 3 of the formula, having a bright color and improved light-fastness. The dye is used as follows: The hair is immersed in an aqueous hydrogen peroxide, pretreated, decolorized, and dyed with the hairdye solution in a bright color. The cationic dye has improved light-fastness compared with the conventional basic dyes, and is not toxic to the hair and skin.

$$(H_{5}C_{2})_{2}N \longrightarrow -N = O_{N}(C_{2}H_{5})_{2}$$

$$+ O_{C\overline{1}}$$

(54) PREPARATION OF METHACROLEIN

(11) 55-22639 (A) (43) 18.2.1980 (19) JP

(21) Appl. No. 53-95796 (22) 8.8.1978

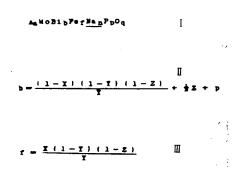
(71) ASAHI KASEI KOGYÒ K.K. (72) TSUTOMU KATSUMATA(2)

(51) Int. Cl³. C07C47/22,C07C45/35//B01J27/18

PURPOSE: To prepare methacrolein in high selectivity, and to improve the life of the catalyst, by the gas-phase catalytic oxidation of isobutylene, etc. in the presence

of a specific catalyst comprising oxides of Mo, Bi and Fe.

CONSTITUTION: Methacrolein is prepared by the gas-phase catalytic oxidation of isobutylene or a mixture of isobutylene and t-butanol with oxygen at high temperature in the presence of a catalyst comprising a composition I [A is K, Rb, Cs; a is 0.002~0.06; b is formula II; f is formula II; n is 1/2Z; X, Y are numbers which fall in a quadrilateral defined by the four apexes (0.45, 0.35), (0.45, 0.65), (0.85, 0.50) and (0.85, 0.65); Z is 0~0.6; p is 0~0.2] supported by 30~70 wt% of silica. As the content of Mo is low, the sublimation loss of Mo can be reduced and the abrasion resistance of the catalyst is improved.



(54) ESTERIFICATION PROCESS

(11) 55-22640 (A) (43) 18.2.1980 (19) JP

(21) Appl. No. 53-95798 (22) 8.8.1978

(71) ASAHI KASEI KOGYO K.K. (72) WATAHIKO TAMURA(3)

(51) Int. Cl³. C07C67/40,B01J23/44,B01J27/24,B01J31/04

PURPOSE: To prepare a carboxylic acid ester from an alcohol, stably, in high selectivity, in a single step, by using a catalyst containing a compound of Pb or Tl and metallic Pd.

CONSTITUTION: A carboxylic acid ester (e.g. ethyl acetate) is prepared in high yield (e.g. 42.5%) by the catalytic oxidation of alcohols containing at least one primary alcohol (e.g. ethanol), with O₂-containing gas in the presence of a catalyst comprising metallic Pd and a compound of Pb or Tl (e.g. 5% of Pd and 3% of Pb(OAc)₂ supported by carbon). The reaction proceeds only by introducing oxygen into the reaction system at 20~150°C under atmospheric pressure. The catalyst keeps its activity for a long time, and can be prepared from a low-cost metal such as Pb.

9 日本国特許庁 (JP)

10特許出願公開

[®] 公開特許公報(A)

昭55—22638

1 Int. Cl.³ A 61 K 7/13

識別記号

庁内整理番号 7432-4 C 砂公開 昭和55年(1980)2月18日

発明の数 2 審査請求 未請求

(全 3 頁)

69染毛剤

②特

顧 昭53-95693

❷出

昭53(1978)8月3日

@発 明

者

山口春夫

京都市伏見区竹田内畑町153番

地

⑦出 願 人 山口春夫

京都市伏見区竹田内畑町153番

地

仍代 理 人 弁理士 北村学

現 無 有

1. 発明の名称

1. カチオン亜軒を主成分とする亜毛剤

4 カチオン染料を主成分とする染毛剤と撮酸化水素水を含有する脱色剤との組合せからなる染毛料セット。

3. 発明の詳細な説明

との発明は毛髪を多様な色彩に染めるための染 毛剤に関するものである。 従来毛髪の 染色に用い られたのは酸化性の染料であって、 との染料はそ れ自体が輸色を呈さないが、毛髪内に浸漉した後 で酸化反応や縮合反応によって発色し染毛するも のである。 との場合酸化時間を短縮するために過 常温酸化水素水などの発色剤と呼ばれる酸化剤が 併用される。

散化性染毛剤としては主にパッフェニレンジア ミンなどの芳香族アミンが使われ、この他に色質 糖整剤としてレゾルシン、カテコール、ピロガロ ールなどが添加される。

との軟化性染毛剤は白髪のカムファージュ用に広く使用されているが、との間の染毛剤により染められる色は黒色が主体であり、他に栗色など褐色系統の色彩があるだけである。

しかしながら最近プァッションの多様化が進む につれ、多様な色彩への築毛が強く要譲されるよ うになった。

この発明はこのような要譲に応えるものであって、毛裳を多様な色彩に簡単に染色することので きる染毛剤を提供することを目的としている。こ の発明にかかる染毛剤は複基性のいわゆるカチォ ン染料を主成分とするものである。

塩基性染料は繊維、羊毛、皮革などの染色に古くから使われてきたが、色彩が鮮やかであるかわりに日光に弱く、容易に退色するという欠点をもっていた。との欠点を改善したのかいわゆるカチオン染料で り、その色彩の鮮やかさと日光製み う度の高さによって住目されていることは展知の

特期 昭25 - 22658 (2)

識りである。従来の塩素性取料にくらべてカチオン取料の特徴は染料の発色共役系とオニウム甚とが関々の絶縁基によって結合されているか又は複素環をもっているととであり,染料の色相や堅うり性は発色系によって。また繊維との結合はオニウム基によって受け枠たれると考えられる。

いずれだしても、このカチオン染料を含め塩素 性染料が毛髪の染色に用いられたことはなかった。 とれはカチオン染料が開発される前の塩基性染料 が一般に日光に弱かったこと、及び黒色の毛髪が そのままではカチオン染料を含む塩基性染料で染 色されないことの磨由によるものと思われる。

最近・発明者はカチオン染料と呼ばれる一連の 染料があらかじめ前処理を施とした毛髪をよく染 色し、その染色された色彩が長期間にわたり安定 であること、および毛髪、皮膚などに有害でない ことを見出し、これを主成分とする染毛剤を開発 した。

との染毛剤について説明すれば以下の通りである。との発明にかかる染毛剤は一選のカチオン染

料の1または2以上を含有し、粉体または軟体の形で提供される。とれらの他に無機塩などの稀釈剤を添加してかけば取扱い上便利であり、さらに換毛の効果をあげるため界面活性剤や鉛度調整剤を添加してもよいが、最も増的にはカチオン染料のみでもよい。

使用に駆してはこの染毛剤を数パーセントの水 物被とし、あらかじめ脱色処理を能とした毛髪に 独市するのである。これにより毛髪は鮮やかな色 影に染色される。毛髪に残っている余分な染毛剤 は通常の方法でシャンプーして洗い器せばよい。

前処理としての製色処理は過酸化水素水溶液に 毛髪を受抜することにより行なわれる。この場合 過酸化水素水溶液に適当な界面層性剤を添加すれ ば効果的である。

以下に本染毛剤を用いた染毛の実施例をあげて、説明する。

(実施例1.)

先ず6 多過酸化水素水溶液中に無要を約20分 間前發表液し,充分水洗したのちドライヤーで乾

嫌した。この前処理により思愛はほぼ象牙色に脱らされた。

次に下配の構造をもつ C、1、ペーシックプルー3と呼ばれる化合物 (C.1.51004 該当)を主成分とする市駅のカチオン築料を熱器で終かして2 %溶液とした。

$$(H_8C_2)_2 N \longrightarrow -N = \longrightarrow N(C_2H_8)_2$$

この幣級をゴム手袋をはめた指で、上記脱色処理を施こした毛髪に載布しつつドライヤーで乾かしていったところ毛髪はすぐに背色に染色された。このようにして染色された毛髪を替逸に行なわれるような方法でシャンプーし水洗したのも乾燥した。染色された毛髪の色形は鮮やかであった。(実施例2)

契施例』の青色染料のかわりに市販のレッドパイオレット染料を用いて関様な手順で染毛したと ころ毛髪は鮮やかな家家色となった。

(実施例3)

間様に染料を市版のカチオンイエロー染料にか えて染毛したところ毛要は鮮やかな黄色となった。 (実施例4)

次に、実施例 1 で用いた背色染料と実施例 3 で 用いた黄色染料を配合し、これを染料として同様 な手順で染毛したところ脱色された毛髪は鮮やか な祭色に染色された。

との例のようにカチオン染料のうちの適当な複数額を組合せて用いることにより多様な色彩への 染毛が楽しめるのである。

また、染色の方法は前述の如く人手で競布するだけでよいのであるから毛髪全体を小区分ともできる。とに分でとに異なる色彩に染めることもできる。上にが大変範囲の他にもカチオンピンク染料など多種にわたるカチオンの 発色試験をおこれである。 大きな変化を示さなかった。 また・毛髪・皮膚などに異状を生じることもなかった。

アクリル観報。 毛などをカテオン脱料で脱色する 合は染料を務かした格板中にかいて100でで60分間程度無沸するのが普遍であるが、これはこれらの材料が実用中に洗剤などで洗われることを考慮し、色彩の安定化をはかるために行なわれるものであり、毛裳の場合はそのような必要はない。

従来の酸化性染毛剤で染毛した場合は毛姜は光 択に乏しく、節の通りも良くなかったがカチオン 染料で染毛した場合は光沢・傷の通りともすぐれ ている。

染色に載してとれらカチオン染料は毛髪の皮質中のメラニン色素が続け落ちた空間に入り込み、 それが適明な毛表皮を進して見えるため光沢がす ぐれているものと考えられる。

本発明にかかる染毛剤と過酸化水素水を含む脱色剤とモャットとして提供すれば需要家にとって もわめて便利である。

代理人 弁理士 北 村

